

公明党千葉市議会議員団

市議会だより

発行日/令和5年1月 発行/公明党千葉市議会議員団
〒260-8722 千葉市中央区千葉港1-1

2023
新春号



稲毛区
桜井秀夫

中央区
酒井伸二

花見川区
川岸俊洋

花見川区
村尾伊佐夫

緑区
近藤千鶴子

中央区
森山和博

美浜区
伊藤康平

若葉区
青山雅紀

本年も皆様のご期待に全力でお応えしてまいります。ご意見やご要望をお寄せください。



第4回 定例会 公明党市議団の 代表質問から

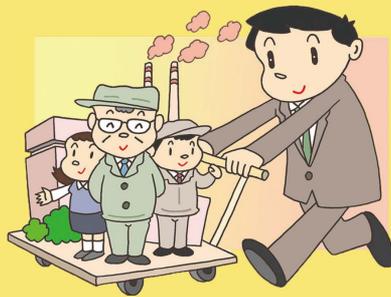
市民生活・市民福祉に 資する新年度の予算編成を!

第1次実施計画の初年度として、事業費の精査を行った上で事業の着実な推進を図るとのことですが、どのような分野に予算を重点配分されようとしているのか伺いました。

市長からは「地域防災力の向上をはじめ、健康・福祉の分野では、新病院の整備のほか、共生社会の実現に向けた重層的・包括的相談支援体制の構築など、また、子ども・教育分野については、乳幼児健康診査や子ども医療費助成の拡充に取り組むとともに、不登校児童生徒1人ひとりの状況に応じた支援を行うこと、加えて、長引く物価高騰への的確な対応策に取り組んでいく」旨の答弁がありました。

中小企業への事業の維持、 継続のための機動的な支援を!

千葉市産業振興財団などの関係機関と、より一層の連携を図り、国や県、本市の各種支援制度を個別の支援ニーズに合わせて活用支援を行いながら、事業者の抱える課題の解決に向けて、相手に寄り添ったきめ細かい支援の強化と施策の拡充を求めて今後の取り組みについて伺いました。



市長からは「コロナ禍や物価高騰などによる経営環境の変化に対応するため、事業変革などの新たな取り組みへの支援が重要であり、また、事業継続の支援については、国の支援金の対象とならない事業者にも支援金を給付するなど、事業者の抱える課題やニーズに寄り添った支援を展開していく」旨の答弁がありました。

3歳児健診に屈折検査機器の 早期導入へ!

本年、第2回定例会の会派の一般質問で、子どもの目の機能が6歳ごろまでにほぼ完成することに触れ、目の異常を見落とさないためにも、3歳児健診時に屈折検査の機器を導入し、子ども達の弱視を見逃さない取り組みをすべきと要望しました。所管からは屈折検査機導入に向けた検討を進めるとの答弁があり、これまでの当局の検討状況について伺いました。

副市長からは「早期の機器導入に向け、第1次実施計画への位置付けを検討しており、機器の必要台数や検査を行う専門職の必要人数、検査会場の環境整備、効率的な健診の流れ等について検討を進めております」との答弁がありました。



文化芸術の力を活かしたまちづくりを!

文化芸術活動は、単に個人の表現の場のためだけでなく、文化芸術の力は、人の心を変えることができる根本的なものと捉えています。

これまで文化芸術活動の取り組みの方向性について、美術館を核としたまちづくり、東京2020オリ・パラ競技大会に合わせた千の葉の芸術祭の定期開催、芸術家やアーティストが一定期間滞在し創作活動を行うアーティスト・イン・レジデンス事業、新市民会館を文化芸術活動拠点に活用することなどを市議団として提案してまいりました。

そこで、本市の文化芸術振興の今後の方向性等について伺いました。

副市長からは「文化芸術活動に気軽に鑑賞・参加体験ができる機会を創出することが重要と考えている。芸術祭の定期開催化や市美術館を中心に街の賑わいを創出すること、文化芸術活動を行う市民が集える場としての市民会館の再整備など、様々な取り組みを実施していく」旨の答弁がありました。



千葉市美術館

子ども医療費助成制度について

子ども医療費助成制度については、全ての自治体で取り組みが行われているものの、その助成内容は様々であることが以前より指摘されています。

また、本来、社会保障制度の一環として、国の制度として実施されることが望ましく、住んでいる場所によって助成に差が生じることはあってはならないことであると考えます。



会派として、令和5年度予算編成に対する重点要望として、子ども医療費助成制度の見直し・拡充について市長へ要望したところでありましたが、改めて千葉市の子ども医療費助成制度に対する基本的な考え方と保険調剤への保護者負担についての今後の方針について伺いました。

市長からは「県が導入予定の保護者負担の月額上限設定のほか、**市独自に3人以上の子どもを養育する家庭の負担軽減を行う制度の見直しを検討する**。また、制度の安定的な継続に必要な財源確保に一定の目処が立ったことや子育て家庭への支援の一層の充実を図る観点から、**保険調剤の保護者負担の見直しについて早期に検討していく**」旨の答弁がありました。

脱炭素先行地域を選定! 脱炭素ドミノの起点に

脱炭素社会構築のため、一昨年に千葉市気候危機行動宣言を公表するとともに、本市の具体的な目標と施策を盛り込んだ次期地球温暖化対策実行計画を策定していると認識しています。そうした中、今般、国の「脱炭素先行地域事業」において本市の提案が選定されました。

そこで「脱炭素ドミノ」の起点となる事業が展開されることを要望し、採択された本市提案の狙いと具体的内容等について伺いました。



動物公園ガスボイラー前

市長からは「先行地域として3つ選定した。1つ目が、**グリーン・MICEエリア**で、幕張都心において、施設の脱炭素化を進める。2つ目は、**グリーン・ZOOエリア**で、動物公園周辺にZEH(ゼッチ)化、電源のネットワーク化に合わせ、モノレール駅への再エネ導入や動物公園にバイオマス熱ボイラーの採用などを進める。3つ目が、**グリーン・レジリエント・コミュニティ**と銘打ち、市全域において民間事業者との連携により、公共施設とコンビニ等からなる施設群へ太陽光発電設備と蓄電池を設置し、それぞれをネットワーク化する」旨の答弁がありました。

市政に関するご意見やご要望をお寄せください!

お住い・年齢について(該当するものに✓をおつけください。)

▶お住い 中央区 花見川区 稲毛区 若葉区 緑区 美浜区

▶年齢 20歳未満 20~39歳 40~59歳 60~74歳 75歳以上